

<p>1 学校教育目標</p> <p>「伝統ある明倫館の学風および松陰先生の教育精神に学び、さらに格調高き明倫教育の創造に努め、もって国家社会の形成者となる有能な人間の育成を図る。～人としての生き方を学び、共に高まりあう子どもの育成～」を基調とし、次の4つの項目を中心に伝統をふまえた創意ある教育活動の展開に努める。</p> <p>① 保護者や地域社会との連携を深めて教育活動を充実させる。【開かれた学校づくり】</p> <p>② 主体的に学ぶ学習活動の展開に努める。【熱く燃える心、学ぶ力や創る力の育成】</p> <p>③ 心豊かな感性を育む教育の推進に努める。【温かい心、生き抜く力の高揚】</p> <p>④ 安心・安全な学校づくりを推進する。【安心・安全な学校づくり】</p>	
---	--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>○特色ある学校づくり ○朗唱や松陰読本と児童の生活を結び付けるための指導や家庭との連携した取組が定着してきている。校長室だよりの発行や学校だより等の様々な情報発信をしてきた。</p> <p>○学力の向上 ●松陰教学に取り組む意義や実施方法を共通理解し、道徳の公開授業等による実践の検証・改善がもたらされる。より分かりやすく必要な情報を積極的に発信する必要がある。</p> <p>○心の教育の充実 ○「書く活動」「高め合う活動」を重視した計画的な校内研修を通して、授業改善による学力の向上を進めることができた。自主学習を全校的な取組として実施することができた。</p> <p>○安心・安全な環境づくり ○特別支援関係の研修や定期的な会議、日々の情報交換により教員間が意思の疎通を図り、担任一人が抱え込むことなく、連携して対応にあたることができた。</p> <p>○業務改善 ●相手を意識して行動することの意義を伝え、全教職員が同じ思いで指導にあたることもとらえられる。委員会活動等、児童の主体的な取組を進める必要がある。</p> <p>●会議の効率的な運営と時間短縮により会議の延長時間を縮小し、学級事務の時間確保を意図的に実施してきた。業務データを適切に管理し、業務の効率化につながった。</p> <p>●会議の内容についての精選と新たな試みに対する傾注を図り、業務改善で生み出された時間を児童への教育活動に還元することがもたらされる。</p>	
---	--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>「ひたむきで ぬくもりのある さわやかな明倫小学校」をめざす学校像として掲げ、次の4点を重点的に取り組む。</p> <p>①特色ある学校づくり:心育て、才能伸ばす教育として、「成徳達材」と「松陰教学」を基底に据えて推進する。朗唱や松陰読本の活用についての授業等の実践を進め、家庭や地域に効果的に情報発信を行う。</p> <p>②学力の向上:動機づけや意欲づけを大切に、教師の手立てを明確にした授業改善を中核にすえての学力向上や、自主学習や読書等の家庭学習の充実に向けた取組を家庭と連携して進める。</p> <p>③心の教育の充実(明倫小ABCの充実と発展): (A)相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」を実践する。(B)美しい心と美しい環境づくりに努める。(C)めあてに向かって主体的に取り組む児童を育てる。</p> <p>④安心・安全な環境づくり:いじめのない楽しい学校づくり、一人ひとりの理解に努める生徒指導を推進する。全教職員が共通理解した組織的な指導と児童の主体的な取組の両面を大切に推進する。</p>	
---	--

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	5 学校関係者評価	
						学校関係者からの意見・要望等	評価
特色ある学校づくり	松陰教学の推進	○松陰教学(朗唱・松陰読本の活用等)を根幹とした教育活動を展開する。 ・朗唱、松陰読本とかかわりのある教育実践(道徳・キャリア教育)の推進	4: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が80%以上 3: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が60%以上 2: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%以上 1: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%未満	4	93%の教員が、肯定的な評価をしている。前期の89%より若干伸びている。学級担任が、総合的な学習の時間だけでなく教科や道徳等で内容を関連付けながら取り上げたり、「わくわく明倫発表会」で取り組んだりしたことなどへの表れである。日々の朗唱だけでなく、松陰先生の教えを教員が意識して教育活動の中へ充実させていくことが今後も望まれる。	朗唱文に合わせて児童がめあてを設定することが、全校で共通した取組となっている。朗唱視察が多いが、児童の励みとなりプラスになる。日々の朗唱だけに終始することなく、松陰先生の教えを教員が意識して教育活動に取り組んでほしい。	B
	保護者・地域との連携強化	○積極的な情報発信を行う。 ・学校だより、学年・学級だよりによる教育活動についての積極的な情報発信	4: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が80%以上 3: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が60%以上 2: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%以上 1: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%未満	4	92%の保護者が、肯定的な評価をしている。教員も100%であり、学級だよりを始め様々な手段での積極的な情報発信が評価されている。校長室だより「明倫の風」への保護者の評価も高い。学級だよりや学年だより等、児童の活動の様子や良い面だけでなく、指導が必要な内容も伝えながら家庭と連携して改善していくことが求められる。	学級だよりが全クラスで配付され、児童の様子がよく伝わっている。今後は指導していることなど、担任の思いもしっかりと保護者に伝えることが大切である。校長室だよりや学校だより、Webページなど内容を充実させる。学年×10分は、保護者にも分かりやすい。家庭での勉強の仕方を教えていくのも教師の仕事。全員に定着させたい学習は宿題で、それ以外は、自分で進められるように指導が必要である。	A
学力の向上	学力向上プランの改善と実践	○学力向上プランの改善を図る。 ・家庭学習の充実 ・自主学習の推進	4: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考えられる保護者が80%以上 3: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考えられる保護者が60%以上 2: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考えられる保護者が40%以上 1: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考えられる保護者が40%未満	3	74%の保護者が、肯定的な評価をしている。自主学習の仕方や内容について、子どもの取組から十分さを感じる保護者もまだまだ多い。自主学習については子どもだけでなく、保護者への情報提供を今後も続けていく必要がある。宿題の適切な量と量、学習時間と合わせて検討していくことが望まれる。	一人一授業の公開授業研究に全教員が取り組み、授業改善につなげている。「書いてかかわり合う」活動を共通理解して取り組み、成果が表れている。今後は内容面や工夫改善が求められる。	B
	授業研究・授業評価をとおした授業改善	○高め合う活動の充実を図る。	4: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が80%以上 3: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が60%以上 2: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が40%以上 1: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が40%未満	4	86%の児童が、肯定的な評価をしている。教員の評価は84%であり、主題を共通理解して意識してきた成果ともいえる。授業の流れとして定着してきたが、書くための条件や内容、かかわり合う活動の目的や内容など、言語活動をより充実させるために、研修をさらに深めていきたい。	「7mのあいさつ」という目標があることがたいへんよい。学校の外でも、児童が知らない人にあいさつをすることができるようになってきている。今後は、教職員が児童に働きかけるとともに、児童の自主的な活動を大切にしたい。	B
心の教育の充実	明倫小(A)	○相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」ができる児童を育てる。 ・「相手の目を見て、いい顔で、相手より先に、続けよう」	4: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が80%以上 3: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が60%以上 2: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%以上 1: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%未満	4	88%の児童が、肯定的な評価をしている。教職員も98%で、前期の93%より伸びている。あいさつ運動への教師の働きかけの度合いによって、児童の取組に大きな変化が見られる。継続して今後も取り組んでいきたい。保護者は77%でやや低く、家庭や地域との連携によって、保護者の意識を高めさせていく必要がある。	「7mのあいさつ」という目標があることがたいへんよい。学校の外でも、児童が知らない人にあいさつをすることができるようになってきている。今後は、教職員が児童に働きかけるとともに、児童の自主的な活動を大切にしたい。	A
	明倫小(B)	○心を美しく磨き、美しい環境づくりができる児童を育てる。 ・いじめを絶対にしない ・花壇の世話をする ・とりにかりを早くし、黙って時間いっぱい掃除をする	4: だまって一生懸命清掃ができた児童が80%以上 3: だまって一生懸命清掃ができた児童が60%以上 2: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%以上 1: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%未満	4	85%の児童が、肯定的な評価をしている。話をしながら掃除をする児童も見られる。教員の肯定的な評価は81%で、担当掃除場所の教職員が、掃除の仕方をしっかりと丁寧に指導することで、黙って一生懸命掃除をすることにつながっていく。木造校舎への感謝の気持ちをもった清掃を、次年度の新学期での清掃につなげていきたい。	掃除の手順や仕方を、児童に指導していくことが大切である。また、教員によってどのように児童に働きかけているか、意識の差が課題である。全教職員、児童みんなで取り組む必要がある。	B
	明倫小(C)	○自ら主体的に取り組む活動を設定する。 ○夢や志をもたせ、具体的な目標に向けて挑戦する心情を育てる。	4: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が80%以上 3: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が60%以上 2: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が40%以上 1: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が40%未満	4	83%の教員が肯定的な評価をしていて、前期の75%より伸びている。2学期は児童に目標をもたせて取り組ませる学校行事が多くあり、教師の働きかけによって児童も主体的に取り組んでいた。保護者は81%の肯定的な評価で、子どもの設定しためあてを、学校と家庭で共有しながら進めていきたい。	代表委員会を決めるなど、児童の主体的な活動として明倫小ABCに取り組むことはとてもよい。児童が決めた「一日一善」の取組を、学校と児童クラブが共有し児童を誉める話題になっていた。	A
安心・安全な環境づくり	安心な環境づくり	○温かい人間関係づくりに努める。 ・教育相談の充実 ・配慮を要する児童への適切かつ組織的なかわり	4: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が80%以上 3: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が60%以上 2: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が40%以上 1: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が40%未満	4	92%の教員が肯定的な評価をしていて、前期の88%より若干伸びている。ケース会議をはじめ、生徒指導情報交換会など、関係職員や関係機関と連携しながら、組織的に動くことができてきている。配慮を要する児童の引継ぎをしっかりしていくことで、次年度も組織的な動きを効果的に進めていくことになる。	気になる児童の情報を全校で共有し対応している。PTAや児童クラブとも連携し、情報共有した取組によって良い方向に向かっていく。細かい事案も大きくなりすぎないようにしっかりと解決してほしい。	A
	安全な環境づくり	○適確な安全指導を行う。 ・無言の教室移動 ・正しい廊下歩行 ・安全な登下校	4: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が80%以上 3: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が60%以上 2: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が40%以上 1: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が40%未満	4	94%の児童が、肯定的な評価をしている。なかよし班による登校は交通ルールを守ることでできているが、帰宅後や休日には交通マナーがよくないことがある。教員は肯定的な評価が82%で、今後もKYT学習をはじめ、交通ルールやマナーについて考えさせる機会を積極的につくる必要がある。	自転車による小さな接触事故が数件あった。自転車も加害者になることを意識させ指導する必要がある。また、自転車の交通ルールが変わったことをしっかりと押さえておいてほしい。	B
業務改善	学校の組織等	○会議の効率的な運営を図る。 ○会議の精選を図る。	4: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が80%以上 3: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が60%以上 2: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%以上 1: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%未満	4	80%の教職員が、肯定的な評価をしている。前期は66%、昨年度後期は52%で、教職員の意識としても着実に改善がみられる。会議自体の時間は短縮されてきているので、各自で配付された文書にきちんと目を通していく必要がある。	会議の時間短縮や勤務状況の改善等、昨年度よりよくなってきているが、今後も努力して改善を図る必要がある。朝早くからの勤務や夜遅くまでの勤務は、教職員にとって勤務のスタイルが違い、それを認めていく雰囲気づくりが大切である。	B
	日常業務	○データの管理・活用による業務の効率化を図る。	4: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が80%以上 3: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が60%以上 2: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が40%以上 1: 適切なデータ管理と活用ができたと考えられる教員が40%未満	4	87%の教職員が、肯定的な評価をしている。電子データの管理はもろろんだが、紙媒体のファイル類の保管も確実にする必要がある。校舎移転後に保管場所を共通理解し、全員が活用しやすい環境づくりを進めた。	来年度から新校舎となつて一つの職員室になり、教職員の情報共有や情報交換がしやすくなる分、会議等の時間を短縮することにつながることを期待する。	B
	勤務状況	○時間外勤務時間を減少させ、勤務状況の改善を図る。	4: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が80%以上 3: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が60%以上 2: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%以上 1: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%未満	3	63%の教職員が、肯定的な評価をしていて、前期の51%より10%以上アップし、改善がみられる。年間計画や月予定の段階で行事や会議の重複や連続をできる限り調整していくことが大切である。	会議の時間短縮や勤務状況の改善等、昨年度よりよくなってきているが、今後も努力して改善を図る必要がある。朝早くからの勤務や夜遅くまでの勤務は、教職員にとって勤務のスタイルが違い、それを認めていく雰囲気づくりが大切である。	B
	勤務状況の改善	○時間外勤務時間を減少させ、勤務状況の改善を図る。	4: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が80%以上 3: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が60%以上 2: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%以上 1: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%未満	3	63%の教職員が、肯定的な評価をしていて、前期の51%より10%以上アップし、改善がみられる。年間計画や月予定の段階で行事や会議の重複や連続をできる限り調整していくことが大切である。	会議の時間短縮や勤務状況の改善等、昨年度よりよくなってきているが、今後も努力して改善を図る必要がある。朝早くからの勤務や夜遅くまでの勤務は、教職員にとって勤務のスタイルが違い、それを認めていく雰囲気づくりが大切である。	B

<p>6 学校評価総括(取組の成果と課題)</p> <p>○特色ある学校づくり ・朗唱やめあてを設定全校で取り組んでいるが、教科・道徳等へもつなげる必要がある。学級だよりは児童の様子がよく伝わっているが、指導すべきことなど保護者に伝えることが大切である。</p> <p>○学力の向上 ・学年×10分は定着してきているが、家庭での勉強の仕方を教えていくのも教師の仕事であり、自分で進められるような指導と保護者への情報の提供が必要である。</p> <p>○心の教育の充実 ・「7mのあいさつ」という具体的な目標があり意識化ができてきている。全教職員が児童に継続して働きかけるとともに、児童の自主的な活動を大切にしたい。</p> <p>○安心・安全な環境づくり ・配慮を要する児童の情報を全校で共有し、組織で対応している。保護者とも連絡をしっかりと取り、細かい事案のうちに早期に解決していく必要がある。</p> <p>○業務改善 ・会議の時間短縮や勤務状況の改善がみられる。議題の調整をするなど、時間短縮に工夫改善をするなど、配付された文書に目をしっかりと通して確認していく必要がある。</p>	
--	--

<p>7 次年度への改善策</p> <p>「ひたむきで ぬくもりのある さわやかな明倫小学校」というめざす学校像の具現化のために、児童と保護者と教職員が一体となって、学校全体が同じベクトルで、みんなで取り組む働きかけを行うことが必要である。本年度までの取組を検証した結果をもとに、新校舎で学校として、学年として、学級として一貫性のある目標設定と計画的・継続的な働きかけの充実が求められる。</p> <p>○「特色ある教育」については、「松陰教学」では日々の朗唱だけに終始することなく、教員が意識して教育活動の中へ充実させていく。学級だよりは、担任の思いを伝えるなどもしていく。</p> <p>○「学力の向上」においては、一人一授業の公開授業研究に全教員が取り組み、授業改善を継続していくとともに、「書いてかかわり合う」活動の内容面や工夫改善をしていく。</p> <p>○「心の教育」や「安心・安全な環境づくり」においては、児童の情報を全校で共有して早期に対応するための組織づくりをより充実させ、安心・安全な環境づくりに進めていく。</p> <p>○「業務改善」においては、来年度から新校舎で一つの職員室になり、教職員の情報共有や情報交換がしやすくなる分、会議等の時間を短縮することにつながることを期待する。</p> <p>学校評価は、学校(教職員と児童)・保護者・地域、それぞれの捉えを総合的に把握・評価し、改善につなげていくことが重要である。次年度は、校舎移転にともない、評価情報の収集の仕方・指標の設定の仕方についても、より実効的なものへ改善を図りたい。</p>	
---	--